

鉤虫保有者と疾病発生との関係について

志々目 亨

岡山大学医学部第一内科教室 (主任 小坂淳夫教授)

(昭和33年12月22日受領)

特別掲載

人体に鉤虫が寄生する場合における病害については古くから多数の学者によつて調査されているところであつて、病害の程度によつて鉤虫症と鉤虫 Carrier とに分けられている。しかし何れの場合においても症状は貧血、循環器障害、消化器症状、栄養障害、神経系症状などである。われわれは今日まで鉤虫が寄生してこれらの症候をみとめると、鉤虫症という一つの独立疾患として取扱つて来た。しかし近年、疫学調査が広く行なわれたことにより、鉤虫症としての症状が明らかでない鉤虫の小數寄生者すなわち Carrier が非常に多いことが判明して来た。このような Carrier の間で、鉤虫が寄生することによつて、ごく軽度な他の疾病要因と作用しあつて人の健康を阻害する面もあらうと考えられる。今回、著者は宮崎県北諸郡山之口村において住民の集団検便、同駆虫を施行したのを機会に、この問題にふれてみたのでその成績を報告する。

調査方法

対象者は昭和31年8~10月に実施した集団検便、同駆虫に参加した村民のなかで国民健康保険に加入している3322名で、15歳以下を小児、16歳以上を成人とした。疾病は駆虫前年として昭和30年8月から31年7月までと、駆虫翌年として31年11月から32年10月までの分を、国民保険の診療請求書から調査集計した。検便法は被検者全員に対して飽和食塩水浮游法を施行した。寄生鉤虫の種類、寄生数により当然差があると考えられ、また他の寄生虫の混合感染如何も問題となるが、本調査では鉤虫保有者(陽性者)と非保有者(陰性者)の比較を試みた。

TORU SHISHIME: The connection of Ancylostoma-carriers and the outbreak of diseases (Department of Internal Medicine, School of Medicine, Okayama University)

成績

1) 集団検便施行の前年翌年における罹病率、治療日数、治療点数の比較

集団検便受検者を前年は陰性者と陽性者との2群に分け、翌年は陰性者と陽性者とに分け、さらに陽性者を集団駆虫参加者と不参加者に分け、それぞれの罹病状態を比較すると第1, 2, 3表の如くであつた。罹病率は前年では小児、成人ともにむしろ陰性者が陽性者より高率であつたが、翌年では駆虫不参加の陽性者が陰性者および駆虫参加陽性者に比較して、小児、成人とも高率を呈した。治療日数は前年翌年とも各群の間に相違がみられず、診療点数は前年では成人の陽性者が陰性者より大であつたが、翌年では既して差がみられなかつた。

2) 集団検便施行の前年翌年における病類別罹病率・治療日数の比較

a) 罹病率: 全員について陽性者・陰性者の病類別罹病率を調査すると第4表の如くで、前年では喘息、扁頭痛、腸疝痛、胃痙攣、胃疾患、膀胱炎、妊娠異常、心臓疾患、および貧血症などが陽性者に高率の傾向がみられ、高血圧症はむしろ低率であつた。翌年になると肺炎、喘息、腸疝痛、胃疾患、神経痛、ロイマチス、湿疹、膀胱炎などが駆虫不参加陽性者に高率の傾向がみられ、高血圧は低率を示した。

成人の場合(第5表)は前年では胃痙攣、胃疾患、妊娠異常などが陽性者に高率の傾向がみられる。翌年では喘息、腸疝痛、胃疾患、神経痛、膀胱炎が駆虫不参加の陽性者に高率の傾向を示した。小児の場合(第6表)は駆虫不参加の陽性児が翌年の感冒、湿疹、腎臓炎などの発生に高率を呈した。

b) 治療日数: 第7, 8, 9表に示した如くであるが、一般に差がみられないようであつた。たゞ消化器疾患において前年、翌年とも陽性者に治療日数が延びる傾向が

第 1 表 集団検便受検者の前年、翌年における国民保険受診状態

		前			年			翌			年					
		陰性者			鉤虫陽性者			陰性者			鉤虫陽性の者					
		調査人員	発病件数	%	調査人員	発病件数	%	調査人員	発病件数	%	調査人員	発病件数	%			
小	児	1310	526	40.2	567	175	30.9	1310	591	45.2	464	184	39.6	103	71	68.9
成	人	521	366	70.5	924	525	56.8	521	468	89.8	656	436	66.5	268	232	86.6
	計	1831	892	48.7	1491	700	47.0	1831	1059	57.8	1120	620	55.3	371	303	81.7

第 2 表 集団検便受検者の前年、翌年における疾病治療日数

		前			年			翌			年					
		陰性者			鉤虫陽性者			陰性者			鉤虫陽性の者					
		調査人員	発病件数	%	調査人員	発病件数	%	調査人員	発病件数	%	調査人員	発病件数	%			
小	児	526	1311	2.5	175	397	2.3	591	1377	2.3	184	393	2.1	71	155	2.2
成	人	366	1149	3.1	525	2035	3.9	458	1437	3.1	436	1404	3.2	232	741	3.2
	計	892	2460	2.8	700	2432	3.5	1059	2814	2.7	620	1797	2.9	303	896	3.0

第 3 表 集団検便受検者の前年、翌年における疾病治療に要した費用

		前			年			翌			年					
		陰性者			鉤虫陽性者			陰性者			鉤虫陽性の者					
		調査人員	治療点数	1人当り	調査人員	治療点数	1人当り	調査人員	治療点数	1人当り	調査人員	治療点数	1人当り			
小	児	526	17705	34	175	5678	33	591	23352	39	184	6228	34	71	2757	39
成	人	366	17433	43	525	34993	67	458	29209	64	436	27448	64	243	12780	55
	計	892	35438	40	700	40671	58	1059	52561	50	620	33976	55	303	15537	51

あるように見受けられた。

考 察

鉤虫保有者の罹病状態については牟田口(1955)の報告がある。氏は三池炭鉱の労務者を対象に鉤虫の感染濃度と疾病発生との関係を調査し、eggs per gram 1000個以上の感染量となると罹病率が高くなり、急性胃腸炎、感冒、神経痛などの疾患が多発し、やすいと述べている。著者の調査では、喘息が陽性者に多発しとくに成人にその傾向が著しいことは、鉤虫の経口感染に際し喘息よう症状を呈するとされているところから興味もたれる。成人の陽性者には消化器疾患が多発し、昭和32年の

流感流行期間には鉤虫保有の小児にとくに多発しているが、これら疾患には鉤虫による病害も関与しているものと考えられる。また高血圧症の出現は鉤虫保有者には意外に少なかったが、鉤虫の不断の吸血と関係があるのではなからうか。

以上の如く当地方においては概して鉤虫保有者の諸疾患の多発傾向はみられなかったが、胃腸疾患、喘息、感冒などの発生にはその影響があるように思われた。

結 論

昭和31年8~10月、宮崎県北諸県郡山之口村において可及的全村民を対象に集団検便、同駆虫を行なったので

第4表 集団検便受検者の前年、翌年における罹病状態

病 類 別			前 年				翌 年					
			陰 性 者		鉤虫陽性者		陰 性 者		鉤虫陽性の 駆虫参加者		鉤虫陽性駆 虫不参加者	
			発病 件数	%	発病 件数	%	発病 件数	%	発病 件数	%	発病 件数	%
呼 吸 器	肺	炎	61	3.3	44	3.0	50	2.7	17	1.5	11	3.0
	喘	息	4	0.2	13	0.6	2	0.1	8	0.7	9	2.4
	感	冒	162	8.9	91	6.1	218	11.9	110	9.8	54	14.6
	流	感					259	14.2	123	11.0	50	13.5
	扁	頭	7	0.4	15	1.0	9	0.5	12	1.1	3	0.8
	計		234	12.8	163	10.9	538	29.4	270	24.1	127	34.2
消 化 器	腸	疝	1	0.1	4	0.3	2	0.1	5	0.4	5	1.4
	腸	疾	114	6.2	68	4.2	99	5.4	36	3.2	25	6.7
	胃	痙	15	0.8	24	1.6			6	0.5		
	虫	垂	13	0.7	12	0.8	23	1.3	6	0.5	4	1.1
	胃	疾	47	2.6	110	7.4	59	3.2			38	10.3
	肝	疾	4	0.2	2	0.1	6	0.3	5	0.4	1	0.3
	計		194	10.2	215	14.4	189	10.3	58	5.0	73	19.8
神 經 系	神	經	40	2.2	42	2.9	29	1.6	32	2.9	20	5.4
	ロ	イ	42	2.3	19	1.3	44	2.4	34	3.0	21	5.7
皮 膚	蕁	麻	19	1.0	12	0.8	15	0.8	9	0.8	3	0.8
	湿	疹	26	1.4	4	0.3	7	0.4	2	0.2	5	1.4
		癩	54	3.0	43	2.9	40	2.2	33	2.9	11	3.0
	膿	痂	98	5.4	53	3.6	41	2.2	28	2.5	9	2.4
		計	197	10.8	112	7.5	103	5.6	72	6.4	28	7.6
泌 尿 生 殖 器	膀	胱	17	0.9	26	1.7	11	0.6	21	1.9	13	3.5
	妊	娠	8	0.4	21	1.4	5	0.3	18	1.6	2	0.5
	腎	臟	9	0.5	4	0.3	5	0.3	4	0.4	2	0.5
		計	34	1.9	51	3.4	21	1.1	43	3.8	17	4.6
結 核	肋	膜	5	0.3	4	0.3	6	0.3	5	0.4	1	0.3
	肺	結	38	2.1	35	2.4	38	2.1	3	0.3	6	1.6
		計	43	2.4	39	2.7	44	2.4	8	0.7	7	1.9
血 液 循 環 器	高	血	28	1.5	12	0.8	46	5.3	31	2.8	3	0.8
	腦	溢					2	0.1				
	心	臟	5	0.3	12	0.8	9	0.5	7	0.6	3	0.8
	貧	血	5	0.3	7	0.5	2	0.1	3	0.3		
	腦	貧	1	0.1								
	計	39	2.2	31	2.1	59	6.0	41	3.7	6	1.6	
そ の 他	鉤	虫	29	1.6	24	1.6	5	0.3	4	0.4		
	脚	の	4	0.2			1	0.1	1	0.1	1	0.3
	そ	の	36	2.0	4	0.3	26	1.4	57	5.1	3	0.8
合	計	892	48.7	700	47.0	1059	57.8	620	55.3	303	81.7	

第5表 集団検便受検成人の前年および翌年における罹病状態

病 類 別	前 年		翌 年		前 年		翌 年				
	陰 性 者		鉤虫陽性者		陰 性 者		鉤虫陽性駆虫参加者		鉤虫陽性駆虫不参加者		
	発病 件数	%	発病 件数	%	発病 件数	%	発病 件数	%	発病 件数	%	
呼 吸 器	肺 炎	14	2.7	26	2.8	28	5.4	12	1.8	9	3.4
	喘 息			12	1.3	1	0.2	8	1.2	9	3.4
	感 冒	48	9.2	51	5.5	72	13.8	74	11.3	33	12.3
	流 感					61	11.7	54	8.2	30	11.2
器	頭 痛	5	1.0	14	1.5	7	1.3	12	1.8	3	1.1
	計	67	12.9	103	11.1	169	32.4	160	24.4	84	31.4
消 化 器	腸 疝 痛			4	0.4			4	0.6	5	1.9
	腸 疾 患	23	4.4	25	2.7	37	7.1	21	3.2	17	6.3
	胃 瘳 攣	9	1.7	24	2.6			4	0.6		
	虫 垂 炎	3	0.6	9	1.0	6	1.2	4	0.6	3	1.1
器	胃 疾 患	35	6.7	103	11.2	46	8.8			37	13.8
	肝 疾 患	1	0.2			6	1.2	5	0.8	1	0.4
	計	71	13.6	165	17.9	95	18.3	38	5.8	63	23.5
神 經 系	神 痛	36	6.9	42	4.5	28	5.4	32	4.9	20	7.5
	ロ イ マ チ ス	29	5.6	15	1.6	36	6.9	32	4.9	20	7.5
皮 膚	蕁 麻 疹	10	1.9	9	1.0	6	1.2	7	1.1	3	1.1
	癩 瘡	24	4.6	33	3.6	8	1.5	21	3.2	9	3.4
	膿 痂 疹 其 他	20	3.8	26	2.8	2	0.4	15	2.3	4	1.5
泌 尿 生 殖 器	計	54	10.4	68	7.4	16	3.1	43	6.6	16	6.0
	膀 胱 炎	14	2.7	26	2.8	11	2.1	19	2.9	13	4.9
結 核	妊 娠 異 常	8	1.5	21	2.3	5	1.0	18	2.7	2	0.7
	腎 臟 炎	4	0.8	1	0.1	2	0.4				
	計	26	5.0	48	5.2	18	3.5	37	5.6	15	5.6
血 液 循 環 器	肋 肺 膜 結 核			2	0.2	6	1.2			1	0.4
	高 血 圧 症	28	5.4	12	1.3	46	8.8	31	4.7	3	1.1
	脳 血 溢 血 患 症					2	0.4				
	心 臟 疾 患 症 血	5	1.0	9	1.0	9	1.7	7	1.1	2	0.7
そ の 他	血 貧 血	3	0.6	7	0.8			3	0.5		
	計	37	7.2	28	3.1	57	10.9	41	6.3	5	1.8
そ の 他	鉤 虫 症	14	2.7	17	1.8	4	0.8	4	0.6		
	脚 氣	4	0.8			1	0.2	1	0.2	1	0.4
	其 他	10	1.9	2	0.2	13	2.5	47	7.2	1	0.4
合 計		366	70.3	525	56.8	468	89.8	436	66.5	232	86.6

第6表 集団検便受検小児の前年、翌年における罹病状態

病 類 別			前		年		翌		年		年			
			陰 性 者		鉤虫陽性者		陰 性 者		鉤虫陽性者		鉤虫陽性者		鉤虫陽性者	
			発病 件数	%	発病 件数	%	発病 件数	%	発病 件数	%	発病 件数	%	発病 件数	%
呼 吸 器	肺	炎	47	3.6	18	3.2	22	1.7	5	1.1	2	1.9		
		喘 息	4	0.3	1	0.2	1	0.1						
	感 流 感	感 冒	114	8.7	40	7.1	146	11.1	36	7.8	21	20.4		
		痛 感					198	15.1	69	14.9	20	19.4		
	頭 痛	2	0.2	1	0.2	2	0.2							
	計	167	12.8	60	10.6	369	28.2	110	23.8	43	41.7			
消 化 器	腸	疝 痛	1	0.1			2	0.2	1	0.2				
		疾 患	91	7.0	38	6.7	62	4.7	15	3.2	8	7.8		
	胃	痙 攣	6	0.5					2	0.4				
		垂 炎	10	0.8	3	0.5	17	1.3	2	0.4	1	1.0		
	肝	疾 患	12	0.9	7	1.2	13	1.0			1	1.0		
		計	3	0.2	12	0.4								
	計	123	9.5	50	8.8	49	7.2	20	4.2	10	9.8			
神 經 系	神 經 痛	イ マ チ ス	4	0.3			1	0.1						
		痛 症	13	1.0	4	0.7	8	0.6	2	0.4	1	1.0		
皮 膚	蕁 濕	麻 疹	9	0.7	3	0.5	9	0.7	2	0.4				
		疹	26	2.0	4	0.7	7	0.5	2	0.4	5	4.9		
	膿 痂 疹 其 他	癩	30	2.3	10	1.8	32	2.4	12	2.6	2	1.9		
		計	78	6.0	27	4.8	39	3.0	13	2.8	5	4.9		
	計	143	10.9	44	7.8	87	6.6	29	6.3	12	11.7			
泌 尿 生 殖 器	膀 胱 炎	異 常	3	0.2					2	0.4				
		腎 臟	5	0.4	3	0.5	3	0.2	4	0.9	2	1.9		
	計	8	0.6	3	0.5	3	0.2	6	1.3	2	1.9			
結 核	肋 肺	膜 結 核	5	0.4	2	0.4			5	1.1				
		計	20	1.5			13	1.0	2	0.4				
		計	25	1.9	2	0.4	13	1.0	7	1.5				
血 液 循 環 器	高 腦 心 貧 腦	血 圧 溢 血 症												
		疾 患			2	0.5					1	1.0		
	貧 血 症	2	0.2			2	0.1							
	計	2	0.2	3	0.5	2	0.1			1	1.0			
そ の 他	鉤 脚 そ の 他	症 気 他	15	1.1	7	1.2	1	0.1						
		計	26	2.0	2	0.4	13	1.0	10	2.2	2	1.9		
合 計	計	526	40.1	175	30.8	591	45.1	184	39.7	71	68.9			

第7表 集団検便受検者の前年、翌年における病類別治療日数

病 類 別	前 年			翌 年												
	陰 性 者			鉤虫陽性者			陰 性 者			鉤虫陽性の 駆虫参加者			鉤虫陽性の 駆虫不参加者			
	発病 件数	治療 日数	1件 当	発病 件数	治療 日数	1件 当	発病 件数	治療 日数	1件 当	発病 件数	治療 日数	1件 当	発病 件数	治療 日数	1件 当	
呼 吸 器	肺 炎	61	164	2.7	44	148	3.4	50	171	3.4	17	56	3.3	11	25	2.3
	喘 息	4	4	1.0	13	50	3.9	2	4	2.0	8	26	3.2	9	31	3.4
	感 冒	162	330	2.0	91	204	2.2	218	418	1.9	110	229	2.1	54	122	2.3
	流 感							259	484	1.9	123	210	1.7	50	96	1.9
	頭 痛	7	11	1.6	15	31	2.1	9	19	1.7	12	39	3.2	3	6	2.0
	計	234	509	2.2	163	433	2.7	538	1092	2.0	270	560	2.1	127	280	2.2
消 化 器	腸 疝 痛	1	1	1.0	4	5	1.2	2	2	1.0	5	8	1.6	5	7	1.4
	腸 疾 患	114	215	1.9	63	103	1.6	99	160	1.6	36	99	2.8	25	47	1.9
	胃 痙 攣	15	30	2.0	24	88	3.7				6	10	1.7			
	虫 垂 炎	13	63	4.9	12	49	4.1	23	112	4.9	6	38	6.3	4	30	7.5
	胃 疾 患	47	161	3.4	110	430	3.9	59	149	2.5				38	153	4.0
	肝 疾 患	4	18	4.5	2	20	10.0	6	47	7.8	5	6	1.2	1	1	1.0
	計	194	488	2.5	215	695	3.2	189	470	2.5	58	161	2.8	73	238	3.3
神 經 系	神 經 痛	40	121	3.0	42	141	3.4	29	86	3.0	32	79	2.5	20	78	3.9
	ロ イ マ テ ス	42	172	4.1	19	68	3.6	44	105	2.4	34	86	2.5	21	53	2.5
皮 膚	蕁 麻 疹	19	63	3.3	12	27	2.3	15	30	2.0	9	27	3.0	3	4	1.3
	湿 疹	26	58	2.2	4	4	1.0	7	27	3.9	2	2	1.0	5	12	2.4
	癬	54	144	2.7	43	118	2.8	40	94	2.4	33	78	2.4	11	64	5.8
	膿 痂 疹 其 他	98	253	2.6	53	152	2.9	41	143	3.5	28	87	3.1	9	24	2.7
	計	197	518	2.6	112	301	2.7	103	279	2.9	72	194	2.7	28	104	3.7
泌 尿 生 殖 器	膀 胱 炎	17	66	3.9	26	83	3.2	11	46	4.2	21	63	3.0	13	42	3.2
	妊 娠 異 常	8	10	1.3	21	62	3.0	5	25	5.0	18	57	3.2	2	2	1.0
	腎 臟 炎	9	40	4.4	4	30	7.5	5	13	2.6	4	21	5.3	2	12	6.0
	計	34	116	3.4	51	175	3.4	21	84	4.0	43	141	3.3	17	56	3.3
結 核	肋 膜 炎	5	10	2.0	4	50	12.5	6	44	7.3	5	33	6.6	1	5	5.0
	肺 結 核	38	283	6.4	35	307	8.8	38	321	8.5	3	10	3.3	6	20	3.3
	計	43	253	5.9	39	357	9.2	44	365	8.3	8	43	5.4	7	25	3.6
血 液 循 環 器	高 血 圧 症	28	118	4.2	12	107	8.9	46	144	3.1	31	251	8.1	3	23	7.7
	脳 溢 血							2	12	6.0						
	心 臟 疾 患	5	16	3.2	12	42	3.5	9	18	2.0	7	28	4.0	3	7	2.3
	血 貧 症	5	10	2.0	7	10	1.4	2	2	1.0	3	10	3.3			
	計	39	146	3.7	31	159	5.1	59	176	3.0	41	289	7.0	6	30	5.0
そ の 他	鉤 虫 症	29	63	2.2	24	79	3.3	5	13	2.6	4	17	3.5			
	脚 氣	4	15	3.8				1	3	3.0	1	1	1.0	1	2	2.0
	其 他	36	59	1.6	4	24	6.0	26	126	4.8	57	229	4.0	3	30	10.0
合 計	892	2460	2.8	700	2432	3.5	1059	2814	2.7	620	1797	2.9	303	896	3.0	

第8表 集団検便受検成人の前年、翌年における病類別治療日数

病 類 別	前 年			翌 年			前 年			翌 年						
	陰 性 者			鉤虫陽性者			陰 性 者			鉤虫陽性の 駆虫参加者			鉤虫陽性の 駆虫不参加者			
	発病 件数	治療 日数	1件 当	発病 件数	治療 日数	1件 当	発病 件数	治療 日数	1件 当	発病 件数	治療 日数	1件 当	発病 件数	治療 日数	1件 当	
呼 吸 器	肺 炎	14	37	2.6	26	112	4.3	28	126	4.5	12	45	3.8	9	23	2.6
	喘 息				12	49	4.1	1	2	2.0	8	26	3.2	9	31	3.4
	感 冒	48	90	1.9	51	121	2.4	72	146	2.0	74	180	2.4	33	81	2.5
	流 感							61	117	1.9	54	109	2.0	30	61	2.0
	頭 痛	5	8	1.6	14	30	2.1	7	13	1.9	12	39	3.2	3	6	2.0
	計	67	135	2.0	103	312	3.0	169	404	2.4	160	399	2.5	84	202	2.4
消 化 器	腸 疝 痛				4	5	1.2				4	7	1.8	5	7	1.4
	腸 疾 患	23	54	2.3	25	53	2.1	37	72	1.9	21	60	2.9	17	34	2.0
	胃 痙 攣	9	16	1.8	24	88	3.7				4	8	2.0			
	虫 垂 炎	3	6	2.0	9	27	3.0	6	26	4.3	4	19	4.8	3	16	5.3
	胃 疾 患	35	135	3.9	103	419	4.1							37	150	4.1
	計	71	213	3.0	165	592	3.6	95	263	2.8	38	100	2.6	60	207	3.3
神 經 系	神 經 痛	36	116	3.2	42	141	3.4	28	79	2.8	32	79	2.5	20	78	3.9
	ロ イ マ テ ス	29	108	3.7	15	60	4.0	36	83	2.3	32	82	2.6	20	52	2.6
皮 膚	蕁 麻疹	10	41	4.1	9	19	2.1	6	15	2.5	7	24	3.4	3	4	1.3
	癬	24	73	3.0	33	96	2.9	8	12	1.5	21	36	1.7	9	59	6.6
	膿 痂 疹 其 他	20	66	3.3	26	91	3.5	2	49	28.5	15	43	2.9	4	12	4.7
	計	54	180	3.3	68	206	3.0	16	76	4.8	43	103	2.4	16	75	4.7
泌 尿 生 殖 器	膀 胱 炎	14	54	3.9	26	83	3.2	11	46	4.1	19	58	3.1	13	42	3.2
	妊 娠 異 常	8	10	1.3	21	62	3.0	5	25	5.0	18	57	3.2	2	2	1.0
	腎 臓 炎	4	33	8.2	1	2	2.0	2	7	3.5						
	計	26	97	3.7	48	147	3.1	18	78	4.3	37	115	3.1	15	44	2.9
結 核	肋 膜 炎				2	39	19.5	6	44	7.3				1	5	5.0
	肺 結 核	18	89	5.0	35	307	8.8	25	126	5.0	1	8	8.0	6	20	3.3
	計	18	89	5.0	37	346	9.4	31	170	5.5	1	8	8.0	7	25	3.6
血 液 循 環 器	高 血 圧 症	28	118	4.2	12	107	8.9	46	144	3.1	31	251	8.1	3	23	7.7
	脳 溢 血							2	12	6.0						
	心 臓 疾 患	5	16	3.2	9	36	4.0	9	18	2.0	7	28	4.0	2	6	3.0
	血 貧 症	3	7	2.3	7	10	1.4				3	10	3.3	1	2	2.0
	計	37	143	3.9	28	153	5.5	57	174	3.1	41	289	7.0	6	31	5.2
そ の 他	鉤 虫 症	14	35	2.5	17	62	3.6	4	12	4.0	4	14	3.5	1	1	1.0
	脚 氣	4	15	3.8				1	3	3.0	1	1	1.0	1	26	26.0
	其 他	10	18	1.8	2	16	8.0	13	95	7.3	47	214	4.6			
合 計	366	1149	3.1	525	2035	3.9	468	1437	3.1	436	1404	3.2	232	741	3.2	

第 9 表 集団検便受検小児の前年、翌年における病類別治療日数

病 類 別	前 年			翌 年			前 年			翌 年						
	陰 性 者			鉤虫陽性者			陰 性 者			鉤虫陽性の 駆虫参加者			鉤虫陽性の駆 虫不参加者			
	発病 件数	治療 日数	1件 当	発病 件数	治療 日数	1件 当	発病 件数	治療 日数	1件 当	発病 件数	治療 日数	1件 当	発病 件数	治療 日数	1件 当	
呼 吸 器	肺 炎	47	127	2.7	18	36	2.0	22	45	2.2	5	11	2.2	2	2	1.0
	喘 息	4	4	1.0	1	1	1.0	1	2	2.0						
	感 冒	114	240	2.1	40	83	2.1	146	272	1.9	36	49	1.4	21	41	2.0
	流 感							198	367	1.0	69	101	1.5	20	35	1.8
器	頭 痛	2	3	1.5	1	1	1.0	2	2	1.0						
	計	167	374	2.2	60	121	2.0	369	688	1.9	110	161	1.5	43	78	1.8
消 化 器	腸 疝 痛	1	1	1.0				2	2	1.0	1	1	1.0			
	腸 疾 患	91	161	1.8	38	50	1.3	62	88	1.4	15	39	2.6	8	13	1.6
	胃 痙 攣	6	14	2.3							2	2	1.0			
	虫 垂 炎	10	57	5.7	3	22	7.3	17	86	5.1	2	19	9.5	1	14	14.0
	胃 疾 患	12	26	4.6	7	11	1.6	13	31	2.4				1	3	3.0
	肝 疾 患	3	16	5.3	2	6	3.0									
器	計	123	275	2.2	50	89	1.8	94	207	2.2	20	61	3.1	10	30	3.0
神 經 系	神 經 痛	4	5	1.2				1	7	7.0						
	ロイマチス	13	64	4.9	4	8	2.0	8	22	2.8	2	4	2.0	1	1	1.0
皮 膚	毒 麻 疹	9	22	2.4	3	8	2.7	9	15	1.7	2	3	1.5			
	湿 疹	26	58	2.2	4	4	1.0	7	27	3.9	2	2	1.0	5	12	2.4
	癬	30	71	2.4	10	22	2.2	32	82	2.6	12	42	3.5	2	5	2.5
	膿痂疹その他	78	187	2.4	27	61	2.3	39	94	2.4	13	44	3.4	5	12	2.4
	計	143	338	2.4	44	95	2.2	87	218	2.5	29	91	3.1	12	29	2.4
泌 尿 生 殖 器	膀 胱 炎	3	12	4.0							2	5	2.5			
	妊 娠 異 常															
	腎 臓 炎	5	7	1.4	3	28	9.3	3	6	2.0	4	21	5.2	2	12	6.0
器	計	8	19	2.4	3	28	9.3	3	6	2.0	6	26	4.3	2	12	6.0
結 核	肋 膜 炎	5	10	2.0	2	11	5.5				5	33	6.6			
	肺 結 核	20	154	7.7				13	195	15.0	2	2	1.0			
	計	25	164	6.6	2	11	5.5	13	195	15.0	7	35	5.0			
血 液 循 環 器	高 血 圧 症															
	脳 溢 血 患				3	6	2.0							1	1	1.0
	心 臓 疾 患	2	3	1.5				2	2	1.0						
血 貧 症																
器	計	2	3	1.5	3	6	2.0	2	2	1.0			1	1	1.0	
そ の 他	鉤 虫 症	15	28	1.9	7	17	2.3	1	1	1.0						
	脚 氣 他	26	41	1.6	2	22	11.0	13	31	2.4	10	15	1.5	2	4	2.0
合 計	526	1311	2.5	175	397	2.3	591	1377	2.3	184	393	2.1	71	155	2.2	

集団検便を実施した前年と翌年との被検者の罹病率、治療日数、診療点数などを調査し、鉤虫感染が疾病発生におよぼす影響を検討して次のような成績を得た。

1) 当地方の鉤虫保有者の罹病率、治療日数および診療点数は、非保有者に比して著しい相違はみられなかつた。

2) しかし鉤虫保有者には喘息、消化器疾患、感冒などが多発的であり、高血圧症の発生は少ない傾向が認められた。

御校閲を賜つた小坂教授に厚く感謝します。

主要文献

- 1) 石崎達・佐藤澄子・久津見晴彦・小宮義孝・永井隆吉・小野田孝義 (1955) : 鉤虫 Carrier の臨床的研究, 総合医学, 12(9), 625-630. —2) 小宮義孝・佐藤澄子・相崎徳治郎 (1952) : 医師にかゝつていない鉤虫寄生者の症状およびその作業能に及ぼす影響について, 公衆衛生, 13(4), 1-6. —3) 小宮義孝 (1956) : 鉤虫と鉤虫症, 寄生虫誌, 5(2) 116-143. —4) 牟田口利幸 (1955) : 炭鉱地方における鉤虫保有者の罹病状態, 公衆衛生, 18(4), 46-48. —5) 大鶴正満 (1955) : 鉤虫保有者の貧血—炭鉱地方における集団的観察, 日新医学, 40, 497-507. —6) 志々目亨 (1958) : 明らかに経口感染によると思われる

ゾビニ多敷寄生の一例, 岡山医誌, 70(2) : —7) 柳沢利喜雄 (1957) : 公衆衛生よりみたる鉤虫問題, 寄生虫誌, 6(3-4), (237-256. —8) 北山加一郎 (1951) : 鉤虫症の臨床, 医学書院. —9) 森下哲夫 (1955) : 十二指腸虫病研究の実際, 医学書院. —10) 宮川米次 (1956) : 最新臨床寄生虫病学, 蠕虫性疾患 1, 中外医学社.

Summary

From August to October in 1956, the author carried out fecal examination and a mass treatment for the inhabitants in Yamanokuchi-Village, Kitamorokata-Gun, Miyazaki Prefecture. The author was able to investigate the attack rate, days of medical treatment and the remedy fee, and so forth, of the examinees, for ranging over a nearly two years (1955-1957). Results obtained by studying the influence of worm infection upon the outbreak of diseases were as follows:

(1) No notable difference between ancylostoma-carriers and non-carriers concerning the attack rate, the days of medical treatment and remedy fee was recognized.

(2) Ancylostoma-carriers are apt to contract asthma, dyspepsia, and influenza, but they show a less frequency in outbreak of high blood pressure.